（２）令和３年度協議内容について
コロナ禍における歯科保健の現状と取り組み

令和３年度　船橋市歯・口腔の健康推進協議会

令和３年１１月１１日（木）
WEB会議形式開催

フッ化物洗口事業

	学校数	全学年で実施校数	クラス数	実施者数
令和元年度	54	19	681	20,189
令和2年度	―	―	―	―
令和3年度	15	14	246	7,253

令和2年度から全小学校全学年での実施が決定していたが、新型コロナウィルス感染症拡大のため**中止となった**。
令和3年度も9月から再開を計画したが、緊急事態宣言や10歳未満のこどもの感染拡大がみられたため延期し、**10月の後期開始から再開した**。
しかし、学校現場の感染対策への負担増や不安感、警戒感から実施校数は減少。

≪感染対策を施した実施方法≫

・換気
・先生がビニール手袋を着用

・児童はうがい時マスクを着用
・吸水用のティッシュを
　1枚→2枚に変更

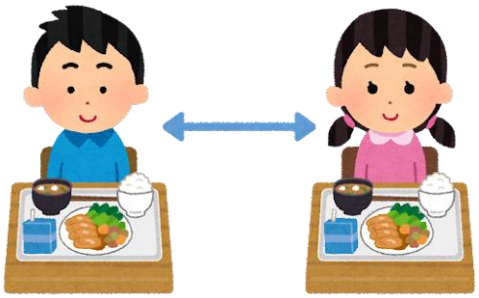
・紙コップを個別に回収
・洗口後の手洗い

所　属	フッ化物洗口事業　について
会長 **（学識経験者）**	感染対策について、科学的な現状を踏まえて再開しても大丈夫という説明に努める。むし歯予防の推進のため、**途切れることなく実施できる環境整備**を。
歯科医師会	コロナがなければ令和2年度から全校全学年実施の計画だったが、途絶えてしまったことが残念。学校それぞれの事情があると思うが、**なるべく早く全校で再開できるように前向きに考えてもらいたい**。
医師会	現状ではクラスターになるとは考えられない、**全面的に実施して構わない**のではないか。
薬剤師会	**鎌ケ谷市ではコロナ禍でも継続して実施している**。地域差もあるが、特に問題はないと聞いている。**教職員に歯科医師会からの助言**があるとよいのでは。大人向けの市販の**洗口液を買いに来た方へアピール**しながら、自分たちでも使用していきたい。
PTA連合会	上の２人は実施できなかったが、下の子は学校で取り組んでいる。子どもの口腔の健康を意識している保護者は多く、これから歯科医院に連れていく、という話を聞く機会もあり、気を付けていると感じる。**取り組みを継続して、お母さん達も口腔の健康意識をもてるとよい。**
校長会	当校の洗口事業は、**感染対策のため中止**している。
養護教諭会	個人的には、**コロナ以前のように学校でフッ化物洗口を実施するのは厳しい**と思う。症状のある子を見極めるため、朝の健康観察が重要になっている、週に1回でも洗口に時間をとるのは負担が大きい。子どもの吐き出した洗口液の回収を担任の先生にお願いするのも厳しいと考えるが、途切れことなく何か対策ができないかと思っている。

歯・口腔の健康に関する視点から見た
学校生活の変化に伴う児童の様子

≪学校生活の中で≫
・学校での感染対策や児童の様子について

≪給食≫
・非対面、会話を控えた給食の様子について
・残される食材の傾向について



≪学校保健≫
・むし歯等の受診勧奨をして、受診した児童数の変化について

≪家庭≫
・子どもたちの放課後の過ごし方の変化や様子について

所　属	歯・口腔の健康に関する視点から見た 学校生活の変化に伴う児童の様子
会長 （学識経験者）	給食後の歯みがきについて、学校現場では相当数の人数になり、距離をとっても十分な密を避ける体制がつくれるか大きな課題。**給食後の歯みがきには、感染状況を鑑みて適切な時期に適切な方法での再開。**
歯科医師会	学校での歯みがきの実施が難しい状況でしたら、**家庭での歯みがきの重要性を学校から発信していただきたい。** 学校歯科健診は簡略した方法で実施したが、**年に1回の健診は不可欠**だと思うので継続してほしい。
PTA連合会	給食後の歯みがきは、保護者としてはやってほしいが各学校長との相談になるのではないか。 子どもの在宅時間が増えたことで、間食も増えていると感じる。 保護者の働き方が変わり、**子どもに向き合う時間が増えたことで、歯みがきを3分間させる工夫した方がいる**。家の中で閉じこもっていて不健康な面もあるが、できることを考えていきたい。
校長会	当校の給食後の歯みがきは、感染対策のため中止している。 学校の通常の活動からすると感染対策に対して気を遣う場面が非常に多かった。**子どもたちに密にならないよう指導するが難しい。**
養護教諭会	家庭の指導力に差がある地域の学校のため、**学校歯科健診がないと自主的に受診にせず、痛くなったらという対応が多い**。運動量の低下など心配していたが、子どもたちはコロナとうまく付き合えるようになってきていると感じる。
学校栄養士会	**特別支援学校なので、支援の必要な児童が多く**、歯科健診では接触や飛沫の感染対策に気を遣っている。 給食時、子どもたちは黙食に取り組んでいて、席の方向や距離を取っている。食べる量が減ってしまった子もいるが、その一方で**自然と噛む回数が増えて、一人でゆっくり食べることに集中できている。**特別支援学級の児童は咀嚼力や嚥下能力の低い子も多く、まとまりにくい食材や固いものは残食しやすい。普通学級でも柔らかいメニュー（ハンバーグ）に人気がある。

保健と医療の現場から
コロナ前と後の状況の変化や課題について

所　属	保健と医療の現場から コロナ前と後の状況の変化や課題について
会長 **（学識経験者）**	歯科診療所でクラスターは発生していない。従前から観血的処置が非常に多いため標準予防策に取り組めている。 **若い世代での歯科健診受診率が上昇したのは、在宅勤務等になり歯科に足を向ける時間が取れたと解釈できる。** **かかりつけ薬局をもつこと**は国の施策の重点事項であり、慢性疾患がある方、投薬は必要な方、コロナが心配な方に対しも活躍していただける。
歯科医師会	**歯科医院はもともと標準予防策を施しているがさらに強化しているので、安心して受診してほしい**。物資が不足し、価格も上昇したことで経営を圧迫されているところはある。コロナ禍で受診控える方も多いと思うが、口腔の健康を損なわないように受診していただきたい。
医師会	今は休眠状態、第６波に備えてどういう医療体制をつくるべきか。妊婦、障害者、認知症の方のコロナ患者の受け入れをどうするか、考えている。皆マスクの使い方がかなり上手になり、**予防に対して委縮することなく、マスク着用でも一般生活に戻れればと思っている。**
薬剤師会	来局する方は減ったが在宅については少し増えたかもしれない。**市と協力して、コロナ患者へ薬の説明を電話で行い、配達した。**コロナ前に歯科衛生商品販売のための知識取得の講習会を行った。薬局に買いに来た方に歯科衛生についてアピールすることでお手伝いができるので、**また講習会を開催したい**。
歯科衛生士会	船橋市の**幼児健診会場では、滞在時間を減らすなど工夫して感染対策を施している。**会は市町村からの委託で健診事業のお手伝いをしているので、工夫点について持ち帰り報告したい。